

2020年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2020年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2021年5月27日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

決算のうち事業活動収支の概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計430.2億円、事業活動支出計350.3億円により、基本金組入前当年度収支差額は79.8億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支差額は7.1億円の収入超過です。教育活動収入の主なものとして、授業料等の学生生徒等納付金271.7億円は、女子短期大学の学生募集停止により学生数は減少したものの、大学コミュニティ人間科学部や学費改定の年次進行効果により、学院全体で前年比1.0億円の増収となりました。一方、手数料15.0億円は、大学の入学志願者数減少により、前年比6.1億円の減収です。教育活動支出のうち、人件費189.8億円は、前年比4.9億円の減少となりました。教育研究経費131.5億円には、大学・女子短期大学のオンライン授業環境整備給付金8.9億円、大学修学支援新制度による奨学金計上分4.0億円、新型コロナウイルス緊急支援給付奨学金1.3億円などが含まれ、前年比13.8億円の増加です。

教育活動外収支差額は3.6億円の収入超過となりました。教育活動外支出の借入金等利息2.8億円には、借入金繰上償還に伴う補償金が含まれています。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額10.8億円は、手数料の減収、教育研究経費の増加などにより、前期比11.3億円の減少です。

経常的な収支を除く特別収支差額も69.0億円の収入超過となりました。大幅な収入超過の要因は、特別収入の資産売却差額73.9億円の計上で、学院施設を売却したことによります。

経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額79.8億円になります。

このほか、資金収支計算書では、学院施設の売却による資産売却収入75.5億円を計上しています。売却で得た収入は、借入金の全額繰上償還に充当し、残額を今後の施設設備計画のための特定資産に積み立てました。そのため、借入金等返済支出36.9億円が前年比28.0億円の増加となっています。設備関係支出では、ICT教研システム設備更新3.7億円などがあります。また安全安心なキャンパスづくりのため計画的に実施している工事として、当期は大学相模原キャンパスC棟の天井耐震補強工事を行いました。

以上のように2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発出される中、学院の教育を途切れることなく繋ぐために急遽オンライン授業の体制を整え、頂戴した寄付金を原資とした奨学金をはじめ在校生を支える種々の取り組みを行ってまいりました。厳しい環境下で収支の予測が大変困難な年度でしたが、最終的に経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額ともに収入超過の決算となりました。

2021年度は大学新図書館棟（仮称）の建築工事が本格的に始まります。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ではありますが、事業計画に沿った教育研究の実現に努めてまいります。

以上